

第6回噴火湾ホタテガイ情報(2013年) 発行日：平成25年7月18日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

沖合にはラーバが高密度に分布しています。湾内の稚貝付着状況は良好です。湾内底層では、貧酸素水塊が発達しています。湾外 20m 以深には津軽暖流水が迫っており、今後、津軽暖流水の流入で、貧酸素状態が解消されると期待されます。

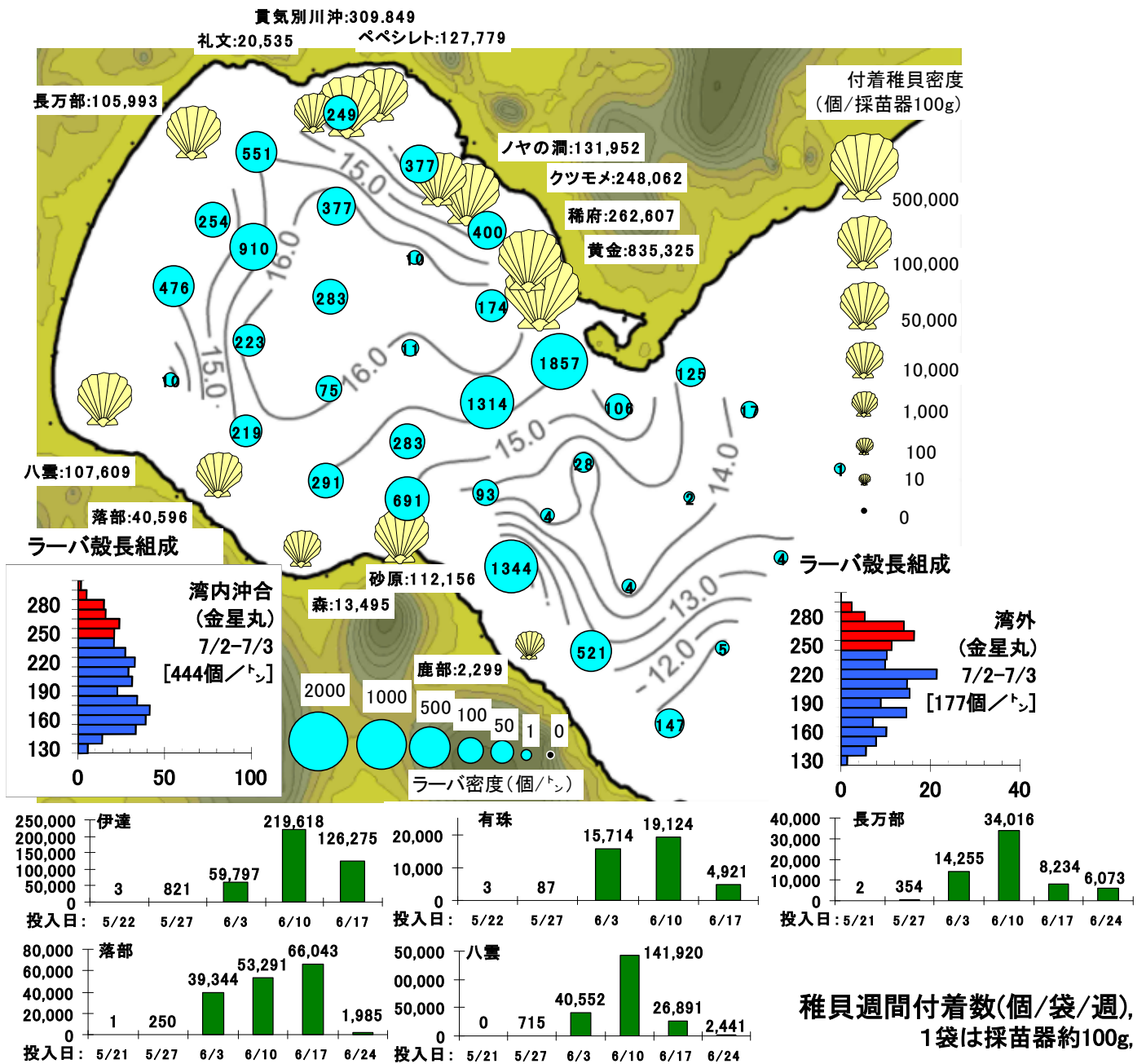


図1. ホタテガイラーバのサイズと分布状況および種苗の付着状況(ラーバ・海洋観測：2013年7月2-3日)、丸および貝の大きさと添付数字はラーバまたは稚貝密度(個/トッ、個/100g)、灰色曲線と数字は深度10mにおける等水温線と水温(°C)。(沿岸部の調査地点は実際の位置よりも沖合にプロットしています。)

(注：湾内沖及び湾外のラーバサイズ組成に誤りがあったため修正しました。2014/07/08)

【概要】 7月2～3日に、函館水産試験場の試験調査船「金星丸」により、噴火湾のラーバ調査および海洋観測を行いました。湾内には、依然として、高密度にラーバが分布しています(図1)。湾内の稚貝付着状況は良好で、13,495(森)～835,325(黄金)個/100gの付着が見られています。稚貝週間付着数から、付着は6/3の週から6/17の週にかけて大量にあったようです。

各地区水産技術普及指導所の採苗情報でも、良好な採苗状況が報告されています。

次回の海洋観測は、7月25日の週に、釧路水産試験場調査船「北辰丸」で実施する予定です。

(連絡先：函館水産試験場 馬場・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからご覧いただけます。http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/

【環境情報】

海底上5mの溶存酸素濃度は貧酸素の目安である3.0mL/Lを下回る地点が出現しており、貧酸素水塊が発達しています(図2)。7月の貧酸素水塊としては、昨年(図5)や一昨年よりも広域に分布しており、2010年と同程度の分布を示しています。2010年は稚貝の大量へい死は起きていません。今後の海洋観測情報に注目してください。

最深地点の水温は、表層から深度11mで高く15.1~15.6℃、深度11~23mにかけて15.1℃から7.1℃に急激に低下しています(図3)。今年、5月以降時化が少なく表層水が攪拌されなかったため、表層水が薄い状態です。溶存酸素濃度は、深度70m以深で急激に低下しています。

湾外の深度20m以深には、高塩分(33.4~33.6)の津軽暖流水が分布しています(図4②)。今後、この津軽暖流水が流入することで、湾内底層の貧酸素状態が解消されると期待されます。

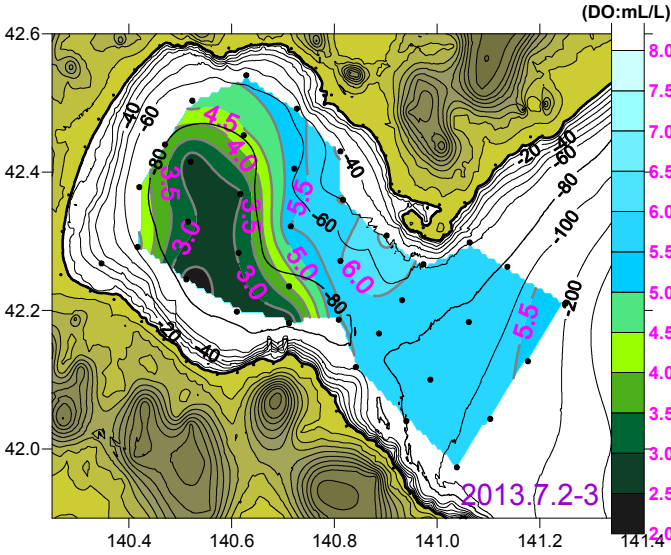


図2. 海底上5mの溶存酸素濃度分布(2013年7月2~3日)

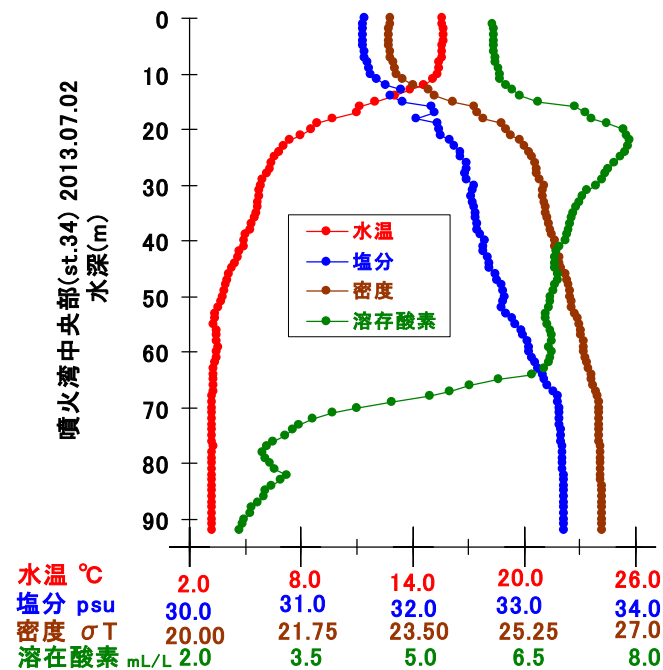


図3. 最深地点(st.34)における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布(2013年7月2日)

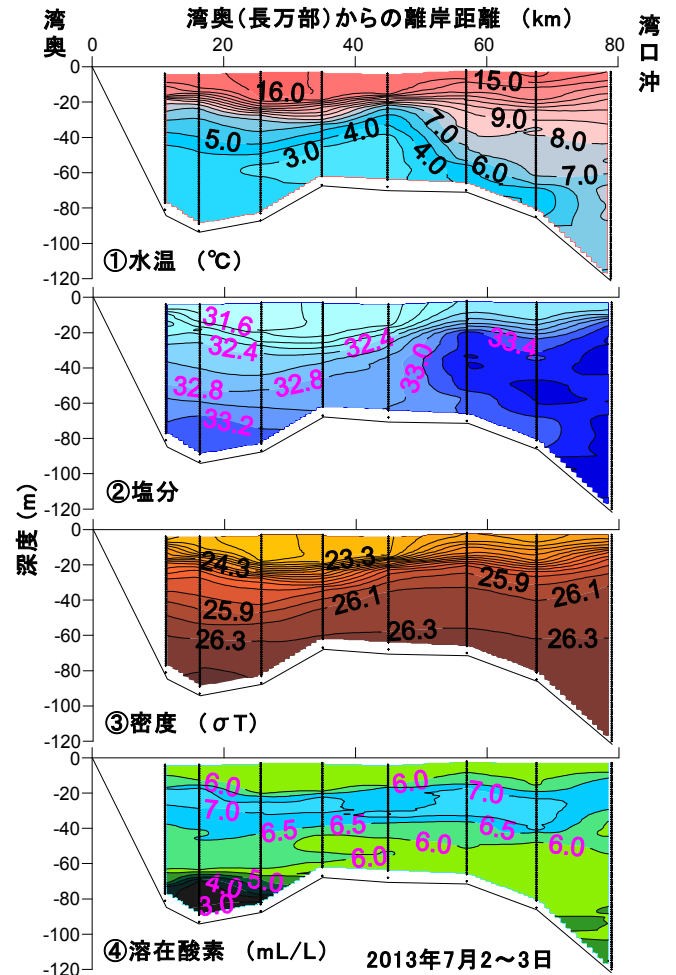


図4. 噴火湾縦断面の環境変量分布(2013年7月2~3日)

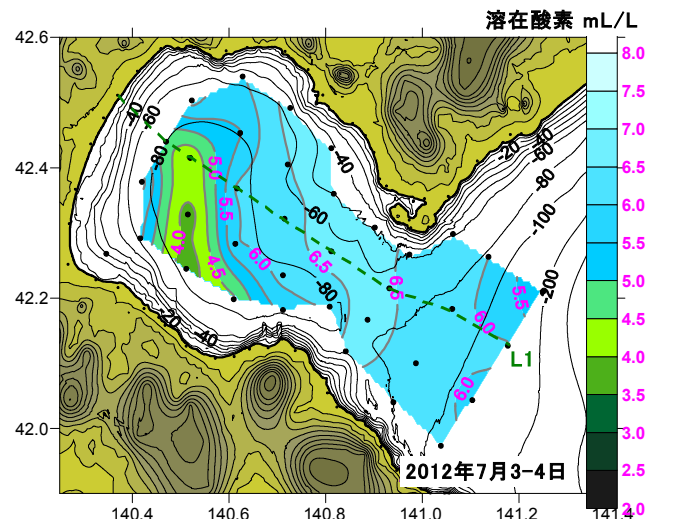


図5. 海底上5mの溶存酸素濃度分布(2012年7月3~4日)